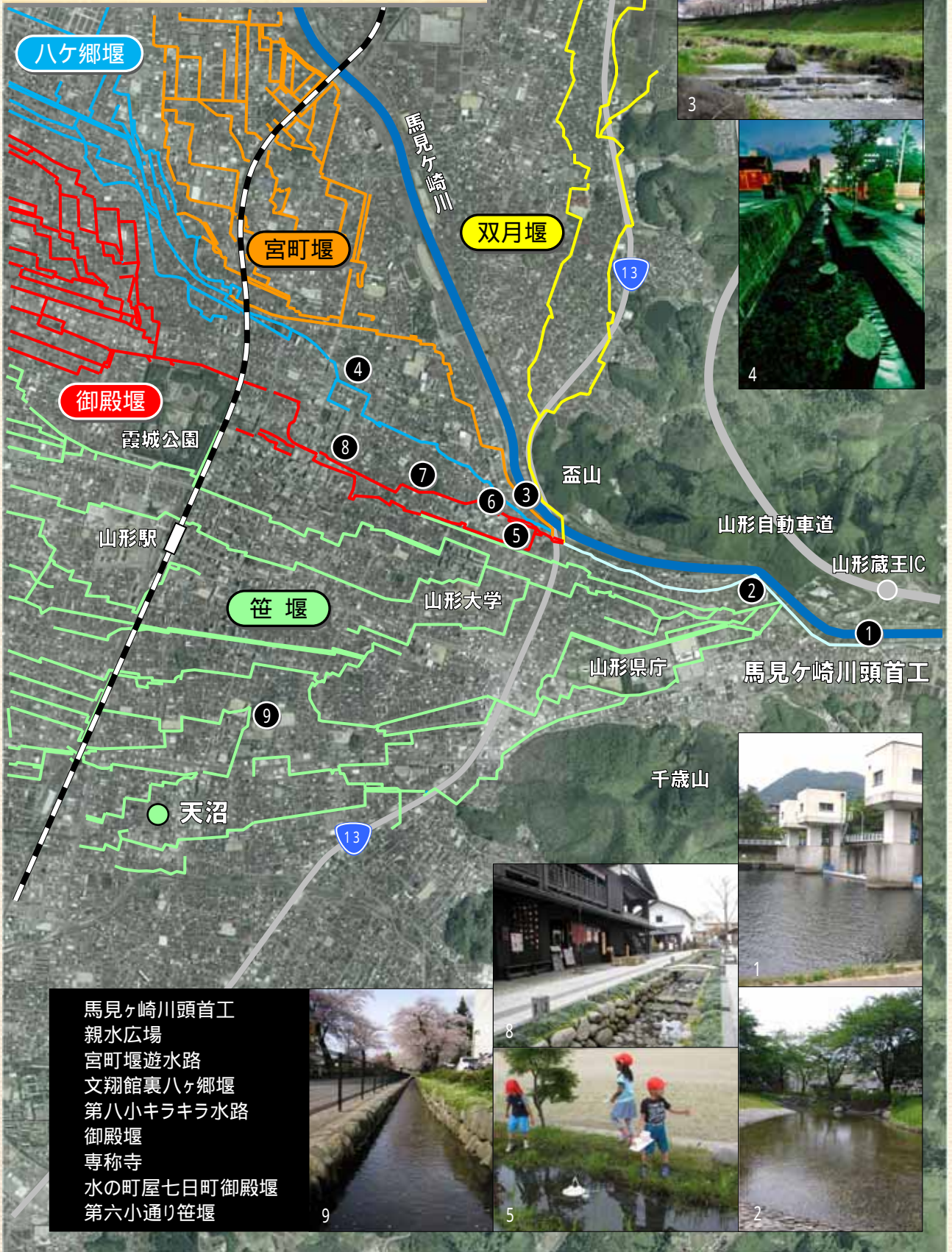


山形五堰 マップ



- 馬見ヶ崎川頭首工
- 親水広場
- 宮町堰遊水路
- 文翔館裏八ヶ郷堰
- 第八小キラキラ水路
- 御殿堰
- 専称寺
- 水の町屋七日町御殿堰
- 第六小通り笹堰





日本の疏水百選



水^み
土^ど
里^り
ウオーク

山形五堰

山形市内を流れる 歴史的遺産

山形五堰は、笹堰、御殿堰、八ヶ郷堰、宮町堰、双月堰の五つの堰（水路）の総称。市街地を網目状に流れる堰は全国でも珍しく、山形市の特徴ある景観のひとつとなっている。

1624年、山形藩主島居忠政が、お堀、生活、農業等に使う水を馬見ヶ崎川から引くため、五箇所の取水口「堰」を設けたことが始まりとされる。現在、取水口は馬見ヶ崎川頭首工に全て統合されたが、五つの堰は形を変え、今もその役割を果たしている。

高度成長期以降、生活排水・工業廃水の流入等により、急速に水質悪化が進んだが、近年では下水道整備と併せ、「山形五堰の流れを考える会」等の保全活動などにより、堰の水質は改善されてきており、清流に

梅花藻(バイカモ)って何？

清流に育つキンボウゲ科の水草(多年草)。7月ごろに可憐な花が咲く。この花が梅の花に似ていることが名前の由来。おひたしにして食べることができるが、食べ過ぎるとお腹をこわすと言われている。



しか見られない「梅花藻」が徐々に増え、可憐な花を咲かせている。さらに石積み水路の整備等により、景観も改善されている。

山形市内を覆うように流れる山形五堰、住宅地を流れるコンクリート水路が、実は山形五堰だと気づいていない方も多いのでは。流れをたどってみると新たな発見があるかも知れない。